

個別のプログラムの詳細と、スタッフの状況に関する報告

1. 個別のプログラムの詳しい内容・留意事項

○全体を通して

手話のできないきこえる保護者のために、手話通訳ができるきこえるスタッフ(以下「通訳兼任スタッフ」という)等を配置し、音声による情報保障や手話通訳により、きこえないスタッフ(以下「ろうスタッフ」という)やきこえない保護者とのコミュニケーションが図れるようにしている。また、こめっこにおける手話は、ネイティブサイナーによるネイティブの手話とする。

○絵本読み

- ・「こめっこ」での絵本については3歳児でもついていける、分かる内容のものを選んでいく。
- ・「こめっこ」の参加を通じて、子どもたちの手話力が少しずつ向上しており、その手話力のレベルに合った絵本を選んでいく。
- ・絵本読みが手話劇になってしまわないように、座って語ることにより、あくまでも絵本読みとして実施している。これによって、「手話」に重きを置くようにしている。
- ・きこえる子どもと同じように、絵本を通して、「知りたい」、「分かる」、「なんだろう?」といった知識欲、理解欲、疑問をもつ体験をする。
- ・保護者が絵本読みの手話を通じて、手話を学んで習得できるよう、音声による通訳も保障する。

○手話表現遊び

- ・音楽に合わせるのではなく、「きこえない人達がそのまま表現するとどうなるか」を体験する。
- ・手話ならではの表現などの要素を盛り込み、楽しみながら手話を覚えることができるようにする。

○0-2 歳児グループ

手話を母語とする成人による手話表現遊び(名前呼び、手遊びを手話表現にアレンジするなど)および絵本読みを行うことで以下の機会を提供する。

- ・聴覚障がいがあっても、目でみることばである手話を通して、楽しくやりとりできることに気づく
- ・聴覚障がいのある成人スタッフと出会い、関わることで、子どもの将来像を保護者が描くことができるようにする。
- ・保護者と子どもが共に楽しく過ごし、同じ体験を共有する中で、自然に手話に触れ、自然に手話をつかうことができるようにする。
- ・ろうスタッフが子どもと目を合わせて、子どもが自然に手話でやりとりする様子を保護者に見てもらうことで、保護者に子どものコミュニケーション能力とその成長を実感してもらう以上のことを通じて、保護者が手話を習得し使う意欲、子どもが自然に手話を獲得し、コミュニケーションを取ろうとする気持ちをはぐくむ。

○手話つくろう

- ・手話の手型から、生き物や植物、乗り物、ことばなどを手話で表現する。
- ・絵カードを使うことで、手話の表出を促したり、心の中のイメージと手話を結び付けたりする。
- ・保護者にも参加してもらうことにより、子どもたちにも保護者にも、より楽しみながら手話を習得してもらう。

○スタッフクイズ、グループクイズ、仲間分けなど

- ・きこえる子どもが普通の生活の中で理解したり習得したりしていくような知識を盛り込んで、遊びながら、それらを覚えていくことができるようにクイズの内容を作っていく。
- ・決まった正解だけではなく、それ以外の見方や考え方も引き出し、子どもが自分で考えてみて、理解することができるよう、プレイフルな環境をつくっていく。
- ・より多くの手話表現を見ることができるよう理由や回答を文章にして豊かな手話表現で子どもに伝える。

○手話ろうタイム(保護者向けの簡単な手話の講座)

- ・「手話はやはり難しい」と思われぬように、2 語文、3 語文を中心に例文を考える。
- ・家に帰ったらすぐに使える例文、単語を考える。
- ・手話を覚えるのが初めてである保護者が持つ手話への疑問に答えたり、手話の由来や意味を分かりやすく伝えるために、手話を習得した聴スタッフによる音声での説明を取り入れたりする。

○保護者同士の交流会

- ・同年齢、異年齢を持つ保護者との交流を通して悩みや問題の共有、情報交換を行う。
- ・必要に応じて臨床心理士等によるファシリテートも行う。

○ろうスタッフによるミニレクチャー(体験談)

- ・ろうスタッフの生い立ちを保護者に聞いてもらい、子どもの心身の成長に必要なことや将来についての見通しを考えてもらう。
- ・きこえないこと、手話について知り、理解を深める

○第二部(2 歳以下の子どもと 3 歳以上の子どもとで部屋とプログラムを分けて行う「あそび」の場。当然、手話を中心としたコミュニケーションを行う。ここでは、3 歳以上の子どもに限る)

- ・遊びの中で、子どもたち(きこえる、きこえないに関わらず)が自然に手話を見て、手話を使う機会をつくる。
- ・さまざまなスタッフの手話による会話を見て、手話による会話に参加する機会をつくる。
- ・遊びの中で発生するスタッフ同士、子ども同士、スタッフと子どもの話し合いについて、なぜそのような結論になるのかの過程や、遊びのルール(こまかいことやその日に子どもたちとスタッフとの話し合いで決めることも含む)を手話で丁寧に説明し、集団や2人で一つのことを決めようとするときの意思形成の過程や、話の流れを理解できるようにする。

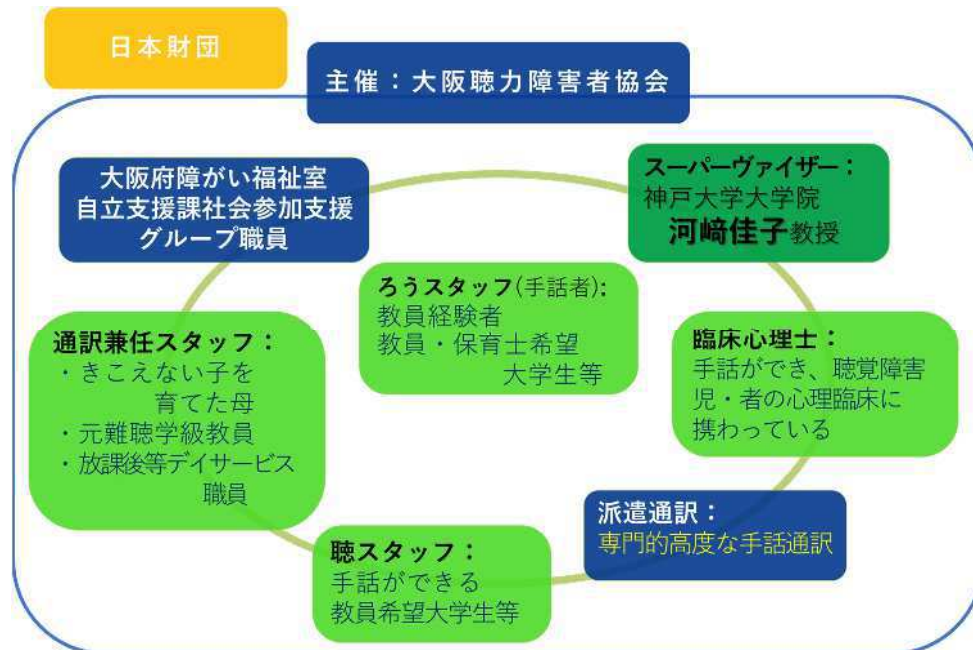
2. 個別のプログラムを開発するのに、どれだけの人員・時間をかけてきたのか

- ・1回の活動について、最低2時間のミーティングをおおむね2回実施。ひとつひとつのプログラムについて、子どもの心理発達や、保護者支援を専門とし、「こめっこ」の提唱者・発案者であるスーパーバイザー（河崎佳子 神戸大学大学院教授）とメインスタッフ2名（大阪聴力障害者協会職員）とで、それらの詳細を話し合い、決定。また、実施にあたっては、準備やリハーサルも入念に打ち合わせ。「こめっこ」に参加している子ども個々の発達状況に合わせて、当日の活動内容や手話表現を決定。
- ・活動中に把握した子どもの発達状況などや、スーパーバイザーやスタッフの気づき、保護者からの相談などの内容などを記録し、データベース化している。
- ・当日に参加するサブスタッフについては、「こめっこ」活動開始時間の2時間前に、絵本よみや進行にあたっての事前研修、1時間前に、内容や留意点に関するミーティングを実施。また、活動後も1時間程度のミーティングを通して、次回に向けた意思や情報の共有を図っている。
- ・活動後のミーティングでは、子どもたちそれぞれの様子や、スタッフ自身の気持ちの変化、対応に困っていること、活動中の改善点を話してもらい、次回以降の活動に生かしている。
- ・年間で21回、各回約2時間のこめっこスタッフ研修を行った。こめっこの目的、方向を共有したり、絵本よみの研修をしたりして、こめっこスタッフの育成を図っている。

○プログラム開発の具体例として、

- ・絵本に関しては、毎回の「こめっこ」ごとに、参加する子どもたちの手話等のレベルや状況に合わせてスーパーバイザーとメインスタッフとで議論をし、どの絵本を選ぶのが適切かを決めていく。併せて、絵本の内容の伝え方や表現方法についても、リハーサルをして事前に確認をしている。
- ・手話ろうタイム（保護者向けの簡単な手話の講座）については、絵本と同様に参加する保護者の手話等のレベルに合わせて、毎回のテーマや例文を検討している。手話表現については、メインスタッフ2名（手話が母語）で話し合って決めている。さらに、事前に動画を撮り、活動日には動画に直接アクセスができるQRコードと各単語の写真付き資料を配布している。また、活動日の翌週にはfacebookやyoutubeにアップロードし、保護者が復習できるようにしている。

3. 「こめっこ」のスタッフ状況



○スーパーバイザー

- ・「こめっこ」の提唱者・発案者。
- ・子どもの心理発達、保護者支援の専門性を有する存在。
- ・きこえない子どもたちが、「手話を見て理解する」、「手話で伝える」、「手話で考える」ことができるように、「こめっこ」をどう展開していった、どこを目指していくかといった具体的な部分、目的を具現化させる役割を担っている。そのために、「こめっこ」スタッフと密にミーティングをして、活動中も全体を見ながら必要に応じてアドバイスをしたり、進行管理をしたりする。ミーティング(反省会)でもスタッフ全体の意見を取りまとめ、共有化していく存在である。ただし、あくまでも手話獲得の場であることを考慮し、ろうスタッフよりも前に立つことは極力しない。

○ろうスタッフ

- ・中心となるメインスタッフ2名(手話が母語)は、流れや内容を考え、スーパーバイザーと密にミーティングをする。また、活動日に向けて使用する教材の準備(作成・確保など)を行う。
- ・活動中は全体の進行のほか、第二部に移行した後も中心的に他のスタッフへの指示や、保護者や子どもたちへの説明を担う。
- ・サブスタッフ(教員、保育士志望のろう大学生等)は、活動中のサポート、子どもや保護者と交流を担う。
- ・きこえない子どものロールモデルが、ろうスタッフ全員の役割である。

○通訳兼任スタッフ

- ・手話通訳士の資格だけでなく、きこえない子を育てた経験や、元難聴学級の教員、放課後等デイサービス職員等、実績を有する。
- ・活動中の通訳やサポート、保護者間、保護者とスタッフ間の橋渡しの通訳をする。

○聴スタッフ(手話ができる教員志望の大学生等)

- ・活動中のサポートや、子どもや保護者と交流をする。
- ・子どもたちが、きこえる存在を平等な立場で知ることができる存在である。

○臨床心理士

- ・新規の参加者に対する初回面接や保護者交流の進行、保護者からの相談対応等を担当しながら、「こめっこ」活動全体の流れをモニター(観察)する役割がある。

2019 年度 講演会の開催について

2020 年 3 月 10 日現在

○謝礼金が発生した講演会

1	2019 年 4 月 20 日	中川 綾二氏	「大学で手話と出会って」 生い立ちや手話に出会う前と後の変化についてお話していただいた。
2	2019 年 6 月 1 日	早瀬 憲太郎氏	「きこえない若者たちの学習支援を通して伝えたいこと」 早瀬氏の実践や経験を通して保護者に伝えたいことや、教育の場で生かせるヒントなどについてお話していただいた。
3	2019 年 6 月 15 日	小埜 真理子氏	「アメリカのきこえないアスリートとかかわって」 アメリカの大学でスポーツに励むろうの学生たちとかかわってきた経験から、アメリカのデフアスリートの様子や、小埜さん自身の思いなどをお話してくださった。
4	2019 年 7 月 6 日	こめっこスタッフの 母親による講演	こめっこスタッフの母親から、こめっこを見学して感じたこと、きこえない子どもを育てた自身の経験、思いについてお話してくださった。
5	2019 年 8 月 17 日	若狭 妙子氏	「軽度・中等度難聴の世界～心の体験、子育ての話～」 軽度・中等度難聴者としての心の体験や子育てについてお話していただいた。
6	2019 年 9 月 7 日	牧原 依里氏	「ろう映画監督からのお話」 自身の生い立ち、ろう映像作家としての活動についてお話していただいた。
7	2019 年 10 月 19 日	阪本 浩一先生	「耳のこと、きこえのことについて」 人工内耳やきこえについて保護者からの事前の質問に答えながらお話していただいた。
8	2019 年 11 月 16 日	こめっこスタッフの 母親による講演	こめっこスタッフの母親から、こめっこを見学して感じたこと、きこえない子どもを育てた自身の経験や思いを語り、今、子育て中の保護者に伝えたいことなどについてお話してくださった。
9	2020 年 2 月 9 日	酒井 邦嘉先生	「脳が生み出す日本手話」 脳言語科学の視点から、科学的根拠を示しながら、手話言語についてわかりやすく講演いただいた。

○謝礼金の発生していない講演会

10	2019 年 4 月 6 日	こめっこスーパーバイザー 河崎 佳子先生	BABYこめっこ、こめっこの役割と、目指すもの&これまでのふりかえりと今年度の流れについて、子どもたちの成長や保護者からの嬉しいおことばを紹介しながら、お話していただいた。
11	2019 年 5 月 18 日	こめっこスタッフ 加藤 桂子・日高 歩	こめっこ通訳スタッフの加藤と日高から、生い立ちとこめっこにかかわったきっかけ、思いなどを話してもらった。
12	2019 年 8 月 3 日	こめっこに参加している きこえない母親による 講演	こめっこに参加しているきこえない母親から家族のこと、こめっこに通う理由をお話していただき、保護者からの事前の質問に答えていただいた。
13	2019 年 12 月 21 日	こめっこスタッフ 久保沢 寛	こめっこ第二部の 3 歳以上の活動内容について、子どもたちのエピソードを交えながら話した。
14	2020 年 1 月 18 日	こめっこスタッフ 物井 明子	こめっこスタッフ物井から写真を交えながら、フランス視察の報告をした。

※いずれも、ドーンセンターにて開催

2019.4.2 サイレントボイス 出張こめっこ

メンバー

・こめっこメインスタッフ:久保沢(ろう)・物井(ろう)・栗田(事務・通訳) ・こめっこサブスタッフ:安藤(通訳)
・大阪府職員:田中・佐藤・河田

参加者 参加家族数 6家族(きこえない子ども:3歳児以上1名、小学校1~3年5名 きこえる兄弟:3歳児1名)

活動内容(13:00~14:00)

サイレントボイス 出張こめっこ	
13:00	なまえよび
	こめっこぱんぱん (デフアカデミーバージョン)
13:10	手話つくろう (アンパンマン、パーとパー)
13:20	絵本「おめんです」
	絵本「へびくんのおさんぽ」
13:35	手話ろうタイム (学校や保育園のことを聞いてみよう)
	さくらぱんぱん (みんなでいっしょにやってみよう!)
14:00	おしまい

○なまえよび

ほとんどの子がしっかり手をあげて返事をする。

○こめっこぱんぱん「デフアカデミー」バージョン。

初めてなのにリズムにのって楽しんでみている様子があった。

○手話つくろう

アンパンマンシリーズで手話つくろうをする。めろんぱんなちゃんやしょくぱんまんなど、自分たちの表し方を果たしてくれる。

○絵本よみ

「おめんです」

うしろに座っているお母さんと話しながら、楽しんで見ている。

「へびくんのおさんぽ」

終始、絵本と手話表現をじーっと見て、内容を理解しようとしていた。

○手話ろうタイム 10! 「学校や保育園のことを聞いてみよう」編

「休み(休憩)」「読む」「新しい」「しかめっ面」「どうして(理由)」「苦手」

ろうスタッフ2人で手話を説明し、手話表現を提示。親子で楽しそうに手話で会話をしている姿が見られた。

○「さくらぱんぱん」紹介 「はる」「さくら」「つぼみ」「まだ」「待つ」「そよ そよ」

初めに出てくる単語を紹介し、手話ぱんぱんを実演した。1回目は見てもらい、2回目に一緒に表現した。親子で楽しそうに表現していた。

2019.5.12 埼玉の聴覚障害教育を考える会

メンバー こめっこメインスタッフ:物井(ろう)

参加者 ろう教育関係者、保護者、手話サークル等 約50名

内容

1	「こめっこ」取り組みについて
2	手話表現あそび「こめっこぱんぱん」の紹介
3	遊びの工夫について(だるまさんがころんだ)紹介

2019.6.27 東広島市健康福祉部障害福祉課

メンバー

- ・スーパーバイザー:河崎
- ・こめっこメインスタッフ:久保沢(ろう)、物井(ろう)
- ・こめっこサブスタッフ:日高(通訳)

参加者 難聴児親の会、障害福祉課、ろうあ協会等 約60名

内容

1	こめっこぱんぱん(手話表現遊び)の紹介
2	手話つくろう(絵カードを使って)
3	絵本「へびくんのおさんぽ」
4	絵本「どうぶつしんちょうそくてい」

2019.6.25 生野聴覚支援学校 出張こめっこ

メンバー

- ・スーパーバイザー:河崎 ・こめっこメインスタッフ:久保沢(ろう)・物井(ろう)・栗田(事務・通訳)
- ・こめっこサブスタッフ:安藤(通訳) ・大阪府職員:河田

参加者 参加家族数 14 家族 (幼稚部 5 歳児クラス)

活動内容(13:30~14:30)

生野聴覚支援学校 出張こめっこ	
13 30	なまえよび
13 35	こめっこぱんぱん(手話表現遊び) (生野バージョン)
13 40	絵本よみ「おかしなかくれんぼ」(物井)
13 50	絵本よみ「へびくんのおさんぼ」(久保沢)
14 00	じゃんけんあそび(どうぶつ絵カード)
14 15	こめっこどうぶつたいそう
14 20	手話ろうタイム(パーでおはなししよう編)
	手話ろうタイムの間、こどもたちは神経衰弱をする。
14 30	おしまい

○なまえよび

あらかじめ参加される先生のお名前を教えてください、先生方のおなまえよびぱんぱんをする。名前を呼ばれた先生は前に出てくださり、特に担当の先生が出られたときはこどもたちもとてもうれしそうだった。

○こめっこぱんぱん「生野バージョン」

こめっこぱんぱんを知っている子は、大きく表現してくれた。また、初めて見る子も真似をしながら表現してくれた。

○絵本よみ

「おかしなかくれんぼ」

うしろに座っていた男の子が絵本よみに惹きつけられ、じわじわ前のめりになっていた。

「へびくんのおさんぼ」

「絵本を知ってる」という子がおり、たのしそうに「次は〇〇」と手話で伝えていた。

○じゃんけんあそび

じゃんけんをして、勝ったらカードがもらえるというルールをすぐに理解して、勝負を楽しんでくれた。後出しをする子もおらず、正々堂々とじゃんけんをしていた。

○こめっこどうぶつたいそう

じゃんけんあそびで用いた、動物の絵カードから、こめっこどうぶつたいそうにつなげる。体を動かすのが好きなようで、もう一回！という子が多かった。

○手話ろうタイム 10! 「パーでおはなし手話学習」と「1をつかった手話学習」

積極的に手を動かす保護者が多かった。手型が固定されているため、イメージがしやすかったよう。保護者の手話学習の間、こどもたちは神経衰弱をして静かに遊んだ。

2019.8.19 米原市健康福祉部社会福祉課 保育士研修会

メンバー こめっこメインスタッフ:久保沢(ろう)・こめっこサブスタッフ:日高(通訳)、立石(通訳)

参加者 米原市健康福祉部社会福祉課、保育士等 約30名

内容

1	こめっこぱんぱん(手話表現遊び)の紹介
2	絵本「だるまさんが」
3	絵本「へびくんのおさんぽ」

2019.9.11 大阪府立中央図書館 出張こめっこ

メンバー ・こめっこメインスタッフ:久保沢(ろう)・物井(ろう)・栗田(事務・通訳) ・大阪府職員:河田

参加者 参加家族数 1家族 (きこえない子ども:0歳児1名、きこえる兄弟:1歳児1名)

見学者 東大阪市役所障がい福祉課2人、ぴよんぴよん寝屋川1人、ぴよんぴよん北摂2人
大東市立西部図書館1人

活動内容(13:40~14:40)

中央図書館 出張こめっこ	
14:30	こめっこぱんぱん(中央図書館バージョン) なまえよび
14:35	絵本よみ「だるまさんの」 絵本よみ「どうぶついろいろかくれんぼ」
14:50	とんとんとんとん (アンパンマン) 絵本よみ「びよーん」
15:10	こめっこどうぶつたいそう
15:15	おしまい

○なまえよび

きこえる兄弟は恥ずかしそうに手を挙げなかったがメインスタッフの手話をじっと見ていた。

○こめっこぱんぱん「中央図書館バージョン」

こめっこぱんぱんがはじまると、きこえない子が体を動かし始め、楽しんでくれていたよう。

○絵本よみ

「だるまさんの」

きこえる兄弟に対して、どちらの絵本を読みたいかと聞くと、だるまさんを選んだ。保護者と絵本に合わせて揺れながら楽しんでいた。

「どうぶついろいろかくれんぼ」手話を見つつ、自分でめくるなどして、楽しんでいた。

〇とんとんとんとん(あんぱんまん)

3枚選んでとんとんとんとんをする際に、子どもが自分で順番を決めて遊んだ。

〇絵本よみ

「ぴょーん」親子で体を動かしながら絵本と手話も見ていた。

〇どうぶつたいそう

手話表現を説明しているときに保護者が真似をしたり、どうぶつたいそうの実演を撮影したりして、家でもやろうという意欲を感じられた。

2019.9.17 生野聴覚支援学校 出張こめっこ

メンバー

- ・スーパーバイザー:河崎 ・こめっこメインスタッフ:久保沢(ろう)・物井(ろう)・栗田(事務・通訳)
- ・こめっこサブスタッフ:安藤(通訳) ・大阪府職員:河田

参加者 参加家族数 13 家族 (幼稚部 4 歳児クラス 5 家族・5 歳児クラス 8 家族)

活動内容(13:40~14:40)

生野聴覚支援学校 出張こめっこ	
13:40	なまえよび
13:45	こめっこぱんぱん(生野バージョン)
13:50	絵本よみ「おべんとうバス」
14:00	絵本よみ「はなすもんかー！」
14:10	手話つくろう (ゲーとゲー)
	こめっこどうぶつたいそう
14:20	手話ろうタイム (買い物編)
	保護者が手話ろうタイムをしている間、こどもたちは神経衰弱などをして遊んで待っている。
14:40	おしまい

〇なまえよび

メインスタッフの名前をよび、その後校長先生を含め数人の先生方の名前を呼ぶ。こどもたちは元気に返事をする先生を見てとてもうれしそうだった。

〇こめっこぱんぱん「生野バージョン」

初めて見る子どもたちも体を左右に振りながら、リズムカルに表現してくれた。こめっこに参加して、知っている子も、「僕知ってるよ！」と言わんばかりに大きく、スタッフが表現する前に表現してくれた。

〇絵本よみ

「おべんとうバス」

「おいで」というところを、同じように手を動かしている子がいた。おにぎりがでてくると、手話で伝えてくれるがいた。みんな絵本をじっくり見ていた。

「はなすもんか！」

読み手が一匹増えることを指で表しているうちに、次に増える予想をして、両手の指で次は3と3になるなど教えてくれた。

○手話つくろう(ゲーとゲー)

カードが見えないうちに、クマが見えたなど子どもたちから表してくれたり、楽しいやりとりをしながら遊ぶ。

○どうぶつたいそう

動物の手話を確認しているときから、スタッフの真似をしていた。

○手話ろうタイム 10! 「買い物編」

買い物に使える例文が多かったので、積極的に手を動かす保護者が多かった。保護者の手話学習の間、子どもたちは3つのグループに分かれて、神経衰弱をして静かに遊んで待っていた。

2019.9.22 特殊教育学会 自主シンポジウム

メンバー

- ・スーパーバイザー:河崎 ・こめっこメインスタッフ:久保沢(ろう)、物井(ろう)
- ・こめっこサブスタッフ:日高(通訳)

内容 「手話言語のあふれる乳幼児期支援について考える」

2019.9.22 特殊教育学会 ポスター発表

メンバー

- ・スーパーバイザー:河崎 ・サブスーパーバイザー:中尾
- ・こめっこメインスタッフ:久保沢(ろう)、物井(ろう) ・こめっこサブスタッフ:日高(通訳)

内容

1. 手話言語のあふれる早期支援事業「こめっこ」(3)
～大阪府の乳幼児期手話言語獲得支援事業における0～3歳児の支援と手話言語発達について～
2. 手話言語のあふれる早期支援事業「こめっこ」(4)
～幼児における手話言語の文法力と会話力の発達について～
3. 手話言語のあふれる早期支援事業「こめっこ」(5)
～年長児保護者へのインタビューから～

2019.10.14 NPO 法人 きらきら

メンバー こめっこメインスタッフ:久保沢(ろう)

参加者 1歳～5歳のきこえないお子さんとそのご家族 約15名

内容

1	こめっこぱんぱん(手話表現遊び)の紹介
2	手話つくろう(絵カードを使って)
3	絵本「だるまさんと」
4	絵本「へびくんのおさんぽ」
5	手話ろうタイム 10! (ミニ手話学習)の体験

2019.10.20 第66回東京都聴覚障害者大会

メンバー スーパーバイザー:河崎 ・こめっこメインスタッフ:物井(ろう)

参加者 東京都聴覚障害者協会会員、手話通訳者、手話サークル等 約500名

内容

1	「こめっこ」取り組みについて
2	手話表現あそび「こめっこぱんぱん」の紹介
3	手話つくろう「ゲーとゲーでつくろう」
4	手話であそぶ「おちたおちた」
5	手話表現あそび「おかたづけぱんぱん」の紹介

2019.11.19 神奈川県議員団訪問におけるレクチャー

メンバー

・スーパーバイザー:河崎 ・こめっこメインスタッフ:久保沢(ろう)、栗田(通訳)

参加者 神奈川県議員団 約10名

内容 「こめっこ」の取り組みについて

2019.11.27 全国聴覚言語障害福祉研究集会 入門講座

メンバー こめっこメインスタッフ:物井(ろう)

参加者 聴覚障害福祉関係者、ろう教育関係者、手話サークル等 約120名

内容

1	「こめっこ」取り組みについて
2	手話表現あそび「こめっこぱんぱん」の紹介

2019.12.7 高槻市障がい児者社会参加促進事業(高槻市聴力障害者協会)

メンバー こめっこメインスタッフ:物井(ろう)

参加者 市民、手話関係者、聴覚障害者等 約30名

内容

1	「こめっこ」取り組みについて
2	手話表現あそび「こめっこぱんぱん」の紹介

2019.12.23 寝屋川市保健師研修会 出張こめっこ

メンバー

- ・サブスーパーバイザー:中尾
- ・こめっこメインスタッフ:久保沢(ろう)・栗田(事務・通訳)
- ・こめっこサブスタッフ:安藤(通訳) ・大阪府職員:河田

参加者 寝屋川市保健師 約 20 名

活動内容(10:00~11:00)

時間	内容
10:00	こめっこの紹介 ※スライド使用
10:30	手話ぱんぱん (こめっこぱんぱんなど)
	だるまさんが
	へびくんのおさんぽ
10:50	質疑応答
11:00	おしまい

○こめっこの紹介

事業の内容、目的を中心にお話した。

○手話ぱんぱん「こめっこぱんぱん、「おかたづけぱんぱん」

それぞれ、音声なしと音声ありで2回披露した。2回目には表現を真似する方もたくさんいた

○絵本よみ

「だるまさんが」

内容を知っているだけに、どうやって手話で表現するのか興味津々で見てくださった。1つ1つの表現に「なるほど」とうなずく人が多かった。

「へびくんのおさんぽ」

「だるまさんが」に比べ、「なるほど」という表情は少なくなり、読み取りを聞きながら集中して見ているという雰囲気になった。

2020.1.14 厚生労働省 障がい企画課

メンバー スーパーバイザー:河崎

参加者 厚生労働省 障がい企画課 3名

内容 「こめっこ」の取り組みについて

2020.1.21 東京都世田谷区聴覚障害者協会

メンバー こめっこメインスタッフ:物井(ろう)

参加者 世田谷区手話講習会受講者 240名

内容

1	「こめっこ」取り組みについて
2	手話表現あそび「こめっこぱんぱん」の紹介

2020.2.6 生野聴覚支援学校 出張こめっこ

メンバー ・スーパーバイザー:河崎 ・サブスーパーバイザー:中尾

・こめっこメインスタッフ:久保沢(ろう)・物井(ろう)・栗田(事務・通訳)

・こめっこサブスタッフ:安藤(通訳) ・大阪府職員:河田

参加者 参加家族数 14 家族 (00 歳児クラス 4 家族・0 歳児クラス 6 家族・1 歳児クラス 6 家族)

活動内容(11:00~12:00)

生野聴覚支援学校 出張こめっこ	
11:05	なまえよび(先生を呼ぶ)
11:10	こめっこぱんぱん(生野バージョン)
11:20	絵本よみ「ぴょーん」
11:30	手話つくろう あんぱんまん
11:40	絵本よみ「たまごのあかちゃん」 「どうぶついろいろかくれんぼ」
	絵本よみ「もりのおふろ」 「だるまさんが」
11:50	手話ろうタイム (気持ち (感情) のことば編)
12:00	おしまい

○なまえよび

最初メインスタッフの名前呼びをし、その後、校長先生、先生方を呼ぶ。

○こめっこぱんぱん「生野バージョン」

保護者も一緒に表現して親子で楽しんでた。

○絵本よみ①「ぴょーん」

ぴょーんというところで、ママたちが赤ちゃんをぴょーんにあわせてと高く抱き上げたり、中には手話でかえるやうさぎを表してくれる子がいたりした。

○手話つくろう(あんぱんまん)

あんぱんまんが好きな子が多く、集中して見てくれていた。また、カードが欲しくて前にくる子もあり、全員で楽しく遊ぶことができた。

○絵本よみ② 0 歳児と 1 歳児にグループを分かれる

00、0 歳児 「たまごのあかちゃん」「くだものいろいろかくれんぼ」

手話表現をじーっと集中してみる子が多かった。

1 歳児 「だるまさんの」「もりのおふろ」

「だるまさんの」では左右に揺れて楽しんだり、「もりのおふろ」では、いっしょにごしごしと洗う真似をしたり、体を動かしながら楽しく見てくれた。

○手話ろうタイム 10！「感情のことば」

子どもが隣にいる状態で行ったが、保護者は子どもを見つつ、手話表現を表して、子どもに向けて表現するなど、親子のやりとりをする方が多かった。

○おにぱんぱん

初めて見る子が多かったと思うが、手話ぱんぱんのリズムを体を揺らしながら楽しんでいる子や、表現をじーっと見ている子などそれぞれの楽しみ方で見てくれていた。

2020.2.23 大阪府障がい福祉室自立支援課 言語聴覚士を対象としたレクチャー

※コロナウイルスの影響により、中止

メンバー サブスーパーバイザー:中尾

内容 心理的発達と手話、こめっこの紹介